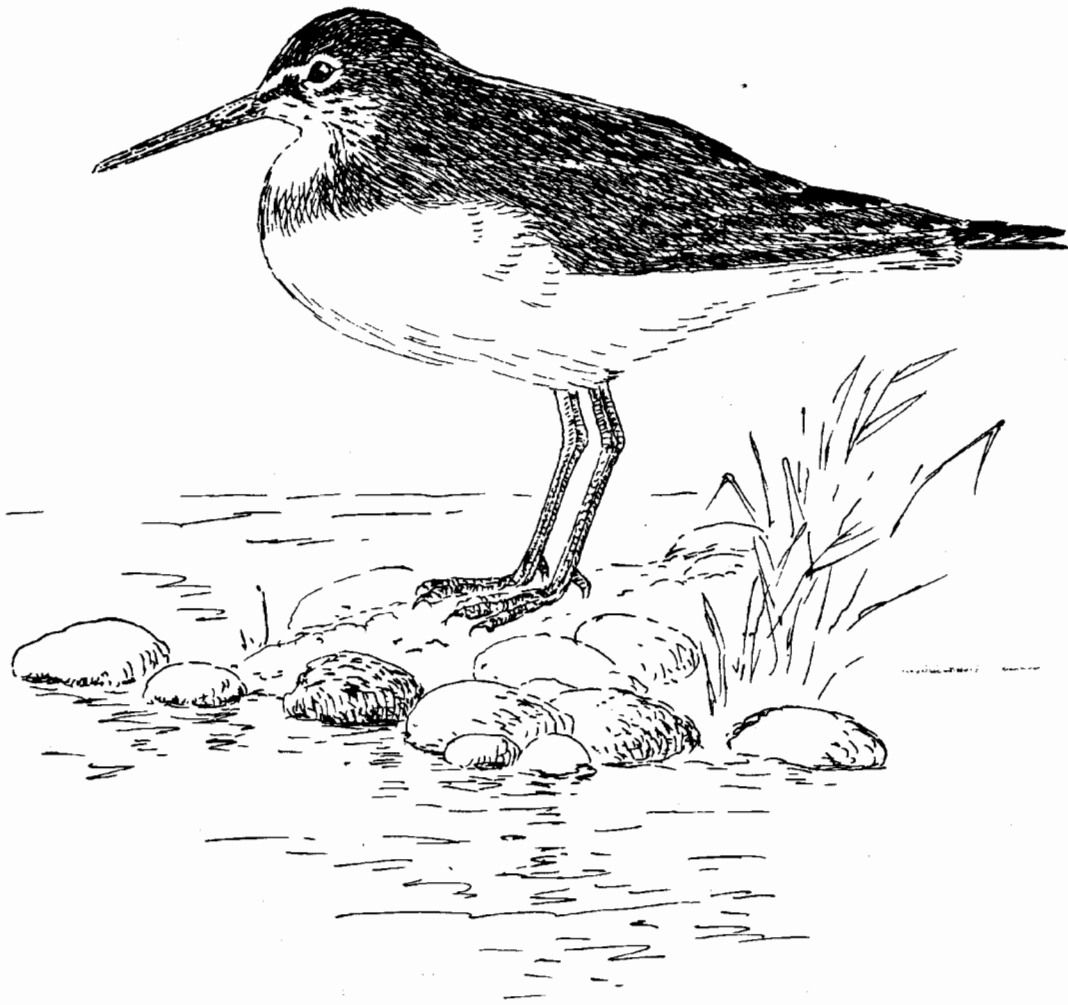


# いさご

第33号



2001年  
(財) 日本野鳥の会

10月  
三重県支部

● ヤマドリの生態について ● 高橋 松人 (副支部長)

ヤマドリは日本特産種として本州・四国・九州の自然林の多い山地に生息している。

藪やおい茂つた樹木で発見しにくい場所に生息し、しかも警戒心が非常に強いため観察することが困難で、研究も進んでいないのが実状であり、研究者により意見が分かれている。ヤマドリの五亜種の分布生息域についてみると、ウスアカヤマドリは研究者A氏は三重県全域とし、研究者B氏は紀伊半島の僅かな地域としている。専門家の間でもこれ程大差があるので学会が発刊する、日本産鳥類目録で詳細の記載ができず問題点として取り上げられた。同目録の編集委員の農水省の森林総合研究所の川路博士より連絡を頂きウスアカヤマドリとヤマドリの分布境界線についての調査を開始した。多方面からの協力者より提供された写真や捕獲場所のはっきりした剥製等を比較調査した結果、簡単に線引き出来ないことが判明した。ウスアカヤマドリは確かに紀伊半島先端部でも確認されるが、その境界線とされる幅広い地域にシコクヤマドリや普通のヤマドリが混棲していることがわかった。三重県では美杉村・白山町・以北はヤマドリの生息地であることは確定しているが最終結論はDNA

鑑定によるとして昨猟期後半に急抛、雄の生固体を集め上記研究機関へ送付した。(雌ヤマドリは捕獲禁止)

- ・(その他ヤマドリの生態について)
- (1) 番関係
- (2) 非繁殖期の雄, 雌, の行動について
- (3) 雄の共同ねぐら (4) 繁殖期のアブレ雄
- (5) 多様なホロ打ち
- (6) 雄の尾羽の役割 (7) 雄のディスプレイ
- (8) 雄, 雌, 軸葛き声等等

・研究機関と情報交換の結果

ヤマドリはキジ同様一夫多妻と思われるが一夫一妻(第一報)であると報告したところ、川路博士も意を強くしたとのこと。繁殖期に入る頃1雄に雌が2-3羽のグループを見ることもあるが間もなく雄1雌1となってしまう。雌2-3羽のグループの謎は7-8月頃から観察される雌親に雌幼鳥1-2羽のグループがそのまま移行したものである

シコクヤマドリは岐阜県高富町のキジ、ヤマドリの養殖場にて調査し手持ち標本と比較、その他生態についても新知見と連絡を頂いている。

目 次

今月の表紙 絵：平井 正志

- 巻頭エッセイ・今月の表紙・・・1
- 特集  
三重各地域の鳥・・・・・・・・・・ 2
- 会員のページ・・・・・・・・・・ 5
- 探鳥会報告・・・・・・・・・・ 10
- お知らせ・・・・・・・・・・ 12
- 編集後記・その他・・・・・・・・ 14

今月の表紙

クサシギ (Tringa ochropus) Green sandpiper

三重県安濃町安濃川(1995年10月)春秋の渡りと冬に内陸の水際で見られる。ヒヨドリくらいの大きさの黒っぽいシギ。人が近づくとピーピーと強い声で鳴いて白い尾を見せて逃げる。群れにならず、1,2羽でひっそりと過ごす。背は黒っぽく、細かい白斑がある。飛んだときに翼に白線は出ない。くちばしはまっすぐで、目のまわりに白い輪がある。春と秋の渡り時期に田等に飛来するタカブシギとよく似ているが、クサシギの方が黒っぽく、翼の裏が黒いので区別できる。

平井 正志 (安濃町)

◆ 三重県各地で見られる鳥と豊かな環境 ◆

今回の特集は、三重県各地での鳥や生物にターゲットをあてて、移動性・生息場所の広がり・身近な鳥の変化に対してのコメントをいただきました。各地区の豊かな環境や特異性を見ていきたいと思ひます。

[津地区]

＜シギ、チドリのメッカ五主海岸とその近辺＞

伊勢湾の中央部へ流れる雲出川河口に位置し、遠浅の干潟が広がり、貝類、海苔の漁場となっており、陸地部は曾原新田、喜多村新田にかけて、農耕地、田が広がり養魚池、水路、芦原があり野鳥の格好の生息環境となっている。今では、春秋の渡り時のシギ、チドリ類のメッカとして大阪、奈良からバスの団体で探鳥に来るようになり、潮時のいい、日曜・祭日ともなると、他府県ナンバーの車とカメラがズラリと並び壮観である。

又、鳥類図鑑等の写真撮影地に三雲町、五主海岸の名前の多さでも人気の程が伺える。

過去8年間の私の記録だけみても130余程にもなり、その内でも、アカツクシガモ(DD)、ツクシガモ(EN)、ミヤコドリ、ヘラサギ、コクガン(VU)、ハイイロチュウヒ、チュウヒ(VU)、シマアジ、シベリアオオハシシギ、トモエガモ(VU)、コチョウゲンボウ、ミサゴ(NT)、ヒシクイ(VU)、ツバメチドリ(VU)、ヘラシギ(EN)、ホウロクシギ(VU)、セイタカシギ(EN)、アカアシシギ(VU)、コスズガモ、アメリカヒドリ、ミコアイサ、コムクドリ、オオタカ(VU)、ハヤブサ(VU)等、県内でもめったに見られない珍客が多く、去年はヘラシギでフィーバーし、今年もツバメチドリ5羽を10数人の会員の方々と観察し、大いに楽しんでもらったところである。

この様な人気の秘密はなんといってもミヤコドリの存在につきる様だ。過去10年余渡来し続け最高16羽を観察するまでになった。

その間、心無いハンターに傷つけられた痛ましい事件もあったが、1999年に銃

猟禁止区域に指定され、その心配も少なくなり、堤防の改修工事もメドがついた様で、冬期のカモメ類も著しく増え続けて、今後共ますます楽しみな探鳥地として、干潟等、環境保護に留意し、見守っていきたいと願っている。

探鳥情報

9月23日 ミヤコドリ 4羽初認  
五主海岸  
9月27日 オジロトウネン 1羽初認  
中村川  
＜久住勝司＞

[南勢地区]

＜ソウシチョウを探してみませんか？＞

先日、私用で実家のある九州北部に帰省しましたが、ひとつ驚いたことがあります。帰省先付近の丘陵地、というか小学校の裏のボタ山(といってもご存じない方もいらっしゃるかも?)跡のブッシュで、あの「ソウシチョウ」が盛んにさえずっていたのです。こんな人里ちかい平地にも、という驚きでした。

ソウシチョウは中国原産のいわゆる籠脱け鳥で、ペットが逃げ出して野生化したものといわれていますが、はじめは九州の英彦山、茨城県の筑波山などで発見されたものが瞬く間に分布が広がり、関東の平野部や六甲山系、九州各地で繁殖が確認されています。春に帰省したときも、山あいの溪谷でオオルリやキビタキの声にききほれているとき、この鳥の声が遠くから聞こえてきて、分布の広がりを実感しました。

さて、三重県ではどうでしょうか。以前、宮川村を訪れたときに、モリアオガエルの産卵で有名な池のほとりでこの声を耳にしたことがあります。クロツグミにも似た音質の、とぎれのない太く力強い感じのさえずりです。

おそらく大峰・大台山系にはすでに相当分布しているものと思われます。(寡聞にして詳しくは知りません。ご存知の方教えてください。)

また、2年半前の99年の3月のことで、自宅(度会町)近くの国東山山麓で数名の同行者とともに、移動中と見られるソウシチョウの群れ(10羽以上と見られました)を目視・確認しました。

このように、県内各地でも今後、この鳥の目撃例は増えるものと思われます。移入種が在来種に与える影響はまだ未知数ですが、ソウシチョウに関しては似た環境に営巣するウグイスなどとの競合の可能性も指摘されており、注意してみていく必要があると思います。

これから冬に向かって、山の小鳥たちも里に降りてきます。ソウシチョウの発見も冬のバードウォッチングのテーマに加えていただけたらと思います。また、その情報を支部報を通じて支部で集約できたら、今後の参考にもなるのではないのでしょうか。

<小坂里香>

[伊賀地区]

<伊賀の鳥たち>

伊賀は地理的に内陸部にあり、河川で言えば上流部にあたります。野鳥が生息する環境は山林、農耕地、河川・湖沼、住宅地に大別できます。

\*注・下に示している留鳥、夏鳥、冬鳥、旅鳥の設定は、伊賀を基準にしています。

1. 山林の留鳥は、ウグイス、カケス、ヤマドリ、オオタカ、クマタカ、ヤマガラ、シジウカラ、ヒガラ、エナガ、メジロ、コゲラ、アカゲラ、アオゲラ、オオアカゲラ、ヒヨドリ、トラツグミ、ホオジロ、イカル、キジバト、フクロウ、ミソサザイ、など  
夏鳥では、ホトトギス、サシバ、ハチクマ、オオルリ、コサメビタキ、サンコウチョウ、ヨタカ、キビタキ、ヤブサメ、など  
冬鳥では、ミヤマホオジロ、アオジ、ウソ、

マヒワ、クロジ、ルリビタキ、ピンズイ、ハイタカ、ツグミ、カシラダカ、シロハラなど

旅鳥では、センダイムシクイ、ツツドリ、エゾビタキ、アカハラ、マミチャジナイ、など

2. 農耕地の留鳥は、ケリ、キジ、トビ、モズ、タマシギ、など  
夏鳥では、アマサギ、チュウサギ、オオヨシキリ、セッカなど  
冬鳥では、タゲリ、タヒバリ、タシギ、チョウゲンボウ、など  
旅鳥では、ムナグロ、キアシシギ、ノビタキ、など

3. 河川・湖沼の留鳥は、カワガラス、ヤマセミ、カワセミ、カルガモ、セグロセキレイ、キセキレイ、ハクセキレイ、イソシギ、イカルチドリ、バン、カイツブリ、ゴイサギ、アオサギ、カワウ、など  
夏鳥では、コチドリなど

冬鳥では、オオジュリン、ベニマシコ、コガモ、オシドリ、ヨシガモ、マガモ、ホシハジロ、キンクロハジロなど

4. 住宅地の留鳥、スズメ、ムクドリ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、カワラヒワ、など  
夏鳥、ツバメ、コシアカツバメ、など  
冬鳥、ジョウビタキ、など

<田中 豊成>

[松阪地区]

<銚子川の鳥たち>

10月に入ったと言うのに今年はいつまでも暑い日が続いていたため、銚子川河川敷もなかなか秋らしい景色になりません。草木は夏さながらに茂ったままです。

さて、野鳥たちの様子ですが、夏の間は300羽以上は常に観察されたイワツバメはさすがに少なくなり10数羽を見る程度となりました。

代わって、50羽以上の群れで飛び回るようになったのはムクドリです。

現在、3群(それぞれ違った位置で)を観察しました。

その他、いつも見られるものとして下記のような種があります。

○ヒヨドリ→単独行動であり広い範囲には移動しないようです。

○ホオジロ→夏にくらべると数が少なくなりました。勿論単独行動です。

○メジロ→ほとんど見かけなくなりました。たまに藪の中で単行を見るくらいです。

○ドバト→いつもはJR鉄橋下を棲み家として常に見られたものが、今年はどうした訳かほとんど見られません。

○モズ→例年のように、今年も高鳴きを始めました。2カ所で見られますが縄張り半径は200M程度ようです。

○スズメ→いつものように10羽程度の群で藪の中を動き回っています。

○ハシブトガラス・トビ→いつもどおり見られます。

特記事項として、ここでの初めての観察記録となりますが、ハクセキレイの未成鳥7羽の群れを見ました。ここではふだんこの種はあまり見かけませんが繁殖をしているのか確かめる必要が出てきました。

昨年までの観察記録を見ると、そろそろタヒバリやピンズイ、ツグミ、アオジなどが初見される時期ですが今年はまだ見られません。

一方、水鳥類では相変わらずカワウ・コサギ・アオサギが多数群をつくって川口近くに集まっているのが観察されます。

ユリカモメ・セグロカモメ・ウミネコなど冬では常連のカモメ類はまだまだ姿を見せていません。勿論、ヒドリガモ・マガモなども来ていません。

総体的にこの地域では小鳥たちの一番少ない時期と言えましょう。あと1ヵ月もすれば冬鳥たちでにぎやかになると思います。

それまではここでの常連たちと付き合いで行こうと思います。

<尾鷲市・保平長三>

[北勢地区]

<海蔵川の鳥たち>

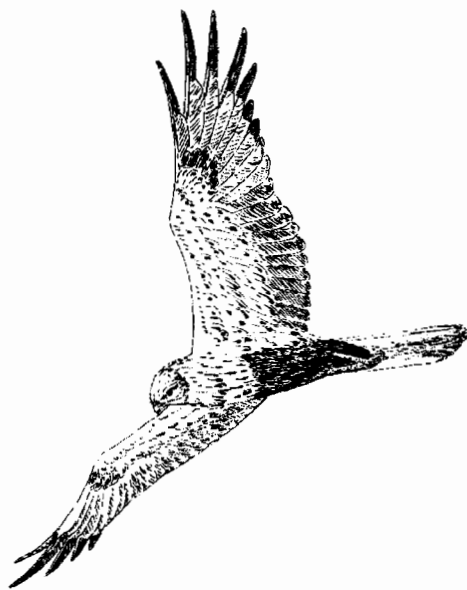
10月3日の探鳥会に参加して海蔵川の鳥をみました。皆さんに付いて行って、色々教えて頂こうと楽しみにしていました。

以前は鳥に余り興味はなかったのです。と言うより鳥のことを知らなかったのです。まだまだ自然の残っている四日市に住んだお陰で身近にたくさんの鳥達がいることに気付かされました。

今回の探鳥会ではおよそ17種類の鳥達に出会えました。キセキレイの水浴びは可愛く、いつまで見ていても飽きません。カイツブリの雛は親鳥に注意されたのでしょうか？身を潜めてじっとしています。バンは川岸の草陰で一休みです。

鳥達の日々のくらしはとても興味深く魅力的です。いつまでも鳥と私たちがこの地で共存出来ることを願って止みません。

<川口裕子>



[ハイイロチュウヒ]

高松海岸にウミガメの赤ちゃんが？

松島雅之

台風 11 号の通り過ぎた 8 月 26 日、四日市の高松海岸で行われた探鳥会に参加させてもらった。

野鳥の会一年生の私だが、ここに関してはチョットうるさい。というのも私の職場がここから 5 分ほどのところに有り、毎日数回この堤防上に車を止め一人探鳥会を行っているからだ。

そんな探鳥会がとんでもないハプニングに沸き返った。ウミガメの足跡らしき物が発見され、やれ写真だデジカメだ E メールで鳥羽水族館に連絡だと大騒ぎ。スコープなどは浜辺に打ち捨てられ探鳥会はどこへ行ってしまったやら。

結局鳥羽水族館の出した結論は、足跡のサイズから石亀だと判断、大水の出た後は上流から海まで流されてくることがよく有るとの事。

わずか数時間ではあったが、久々に胸のときめく時間を持たせてもらった。

いざ 神島

三村明子

良く晴れ渡った 10 月のとある日 鳥羽発 9 時 50 分の神島行きに乗船 10 時 30 分着。

急な坂道を垂直のように登って灯台まで上がる。

そこはもう人だかり、猫だかりで我々に坐る余地は残っていない。少し離れた場所を借りて昼食をとる。

この坂を登り始めてすぐ渡りの蝶アサギマダラをそこかしこに発見。

灯台までの道にもチラホラといて感激したが、ここはもう佃煮状態。

女郎ぐもは、随所に枝や草花に大きな網を張り彼らを待ち構えている。

中にはその糸に絡まっているものもいるが、彼らにも又、生活がある訳でどちらかに加担するわけにもいかないが、同行の人に助けられたものも 2, 3 匹。

ここで難を逃れてもあのふわふわ飛びでは又すぐ引っかかるように思えてならない。上手くこの島を脱出できる歩止まりは一体どの位だろうと、ふと疑問が湧いた。



さて 肝心のサシバの方は時期が少し遅くて (折込済み) 期待のタカ柱という訳にはいかないが、それでも突然眼に飛び込んでくる 昨年もう少し早く出かけた人の話によると、その時はこんなものじゃなかったという。

が、しかしがっかりするにあらず

一回り大きいハチクマがサシバを越えて出てくれて、我々を大いに喜ばせてくれた。

その透き通る白い羽に歓声とため息がもれる。

私はあの近さで見たことがない。

ハヤブサが猛スピードでかけ抜けていった。

5 時間の滞在を経て、大波ゆれる中、帰路に着いた。

利尻・礼文で鳥を見た

鹿島素子

観光の季節からはやや遅いかと思われる9月初旬、5人の仲間に加えていただき、北海道日本海側を北上しながら礼文、利尻島に行って来ました。

この旅行の第一の目的は、天売、焼尻島が眺められる地に帰郷されたK氏邸への表敬訪問です。お出迎え頂いたKさんは、以前にもまして若々しく元気で、嬉しい再会でした。

この旅行は、何ヶ月も前からの予定で、雨でも風でも多くを望まず、などと言いながら出発しましたが、心がけの良い人ばかりだったらしく好天続き、日の出から日没までフルに走り回り、歩き回っての楽しい5日間でした。

第二の目的であった鳥も、やや少ない季節にもかかわらず、スズメからウミネコまで数えて、39種が見られました。

強く印象に残ったものに、サロベツ原野から稚内の間の、以前採土場ででもあった所か、20メートル余りの断崖の最上部に、すごい数の巣穴があり、それが延々と続いている場所がありました。双眼鏡で見ると、まだ巣穴へ出入りしているショウドウツバメもみられます。繁殖がおくれたものでしょうか。朝夕の冷え込みが心配です。

礼文の夕日を見た丘では、アマツバメの家族と思われる群が、手を伸ばせば届きそうな頭上をジュリ……ジュリ……と鳴き交わしながら、美しい夕焼け空の中を暗くなるまで舞い続けていました。

礼文の高山植物園では1羽だけのスズメがいました。何だか1羽とゆうのも変な気がしますし独特の黒い頬紅もありません。普段屋外では、スズメだ、くらいにしか見ないのに皆でジロジロ眺めた後、イエスズメだとなりました。イエスズメは、90年頃から礼文、利尻に通年居ることでした。

利尻への船には、乗客からおやつを貰おうとウミネコが群がっていました。

熟練した成鳥は投げる人の手との距離など、最も良い席をゲットし、良い間隔を保ちながら無駄のない飛び方をし、投げられれば巧みにキャッチ。なかなかの技です。

褐色又は褐色が残る若いウミネコは、泡立つ海面に着水して拾って食べ、遅れまいと急いで懸命に飛んでいます。この差は練習の賜なのでしょう。彼らも遠からず、上手になることでしょう。

利尻の姫沼では、もしかしたらクマゲラが、と期待して、冷え込む早朝、耳も目も全神経を研ぎ澄ませて待ちましたが、昨日がクマゲラの出勤日で、今日はアカゲラの当番の日だったようです。クマゲラが削り落としたと思われる大きな木っ端が根本に散らがり、つい最近、ダダ……とやったんだな、と思われる場所が何カ所もありました。

次の機会にはクマゲラに会おうよ！

探鳥の途中5～6メートル前方で、ゴジュウカラ、シジュウカラ、ヤマガラ、それにミソサザイまでもが、何羽も何羽も入り乱れて、地面と下枝との間の行き来を繰り返しています。何を食べているのか分かりませんが、私たちに見つめられていることなど気にも止めずに、夢中になって続けていたその様子が、幻想だったように、目の奥に残っています。

旅行中、事ある毎に乾杯し、食事は美味しく、身も心もうれしい旅行でした。

絶対にまた行きたいな！



### 《私の一番鳥》

皆さんの気楽な鳥に関する話題という意味でミニコラムのコーナーを作りました。

身近な鳥に関する話題や、思い出の鳥、仕草や表情が印象に残っているものなど、休憩コーナーとしてやってみたいと思います。

タイトルを《私の一番鳥》として

例えば

- |           |  |
|-----------|--|
| <好きな鳥>    | その鳥の色でもさえずりでも飛翔でもなんでも、、、                         |
| <出会った鳥>   | その鳥に出会った事が野鳥の会の入会きっかけとか入会後にこんな鳥に会えたとかなんでも        |
| <あこがれの鳥>  | 人の話ばかりでいつかは会いたいと念じている鳥などなんでも                     |
| <待ち焦がれる鳥> | 毎年帰ってきてくれるのを首を長くして待ち、来なければ心配し、来れば、えさの心配をしてなどなんでも |
| <気になる鳥>   | 数の増減による環境変化などなんでも                                |

とにかくなんでもなのです

### 私の一番鳥

岡 八智子

夢にまで見ていたカワセミがなんとすぐ近くのどぶ川？（山の清流に住むと思っていました）をまるで宝石が飛んだように見え感動！、それから追っかけが始まり、すっかりこの世界に足を入れてしまいました。それまで皆すずめかと思い、気にもしなかったけれど双眼鏡、望遠鏡を覗いて、初めて身近に沢山野鳥が居ることを知り感動しました。

男性のように行動力が無いのでまだまだ会えない鳥も沢山ありますが、マイペースで自分なりの楽しみでやっていこうと思っています。

けたたましいほどのモズのたか鳴きで、秋を知らせる幕が開きました。暫くすると可愛いさえずりの声に「次は何が来たの？」とその方を見ると モズ！！ ほんとに百舌とはよく言ったもの、次々色々な鳴き声で騙されます。

モズの声に慣れた頃、次のお客様！私のオジョウがやってきました。最初はヒッヒッと自転車のブレーキの音と間違えてしまいます。ちゃんと帰って来てくれたのに感動し、早速ミルワーム買ってこなくてはと嬉しくなります。亀山の探鳥会の時、Oさんが「家のジョウビタキがえさを待ってるから」と急いで帰っていかれました。さっそくその真似をしたところ、我が家にも来てくれるようになったのです。

慣れると日に何回も覗きに来ますが1日1回にしています。



みかんを出しておくともじろもやってきますが、すぐヒヨドリに追っかけられるので鳥かごに数箇所メジロが通るだけ少し開けて中にみかんをぶら下げ、家の中からウオッチング。  
(ヒヨドリにもあげますよ) 又その世話で忙しくなります。

この夏もせっせとスズムシや蝶の幼虫の世話をして、最終一卵、蛹となり来春に命を繋ぎやっと一仕事終えたところです。その私が今度は鳥のためにミルワームを与えるとは、自分ながら身の替わりようにあきれます。蝶と鳥を追っていますが、食物連鎖でつながっています。例えば学校、神社、公園、街路樹にクスノキが多く植えられています。アオスジアゲハの植樹なので、卵がみな成虫になったら大変です。そのほとんどが、蜂や鳥の餌となってちょうどいい様になっています。

今年もまたミヤコドリをはじめ沢山の冬鳥がやってきました。近くにタゲリ、団地の調整池のトモエガモ、安濃ダムのオシドリ、待ち焦がれる鳥たちです。冬の寒さも何のその、鳥に会いたい一心で頑張ってお出かけのことでしょう。

(私の一番鳥) 皆それぞれ素敵なので決められません。あげるとすれば、やはりこの道に導いてくれたカワセミでしょうか。



「私のオジョウ」

秋の鳥(鳥渡る)

鳥渡る 空の碧さの 無限なる

朝鵬や 竹美しき 里の山

翁来て 榿柳の時を 共にせむ

山の宿 窓磨かれて 鵬日和

野鳥にも 序列厳しき 木の実垣

鵬の贅 児らが見つけし 探鳥会

鵬が極く 落ち葉を風が 飛ばしけり

坂口 草人

みむ一の中国通信 (3)

三村 祥子

ニイハオ！みむ一です。すっかり中国でも秋の空になりとんぼが飛ぶ季節になりました。みむ一は三ヶ月の研修期間を終えて9月から上海の復旦大学で勉強しています。寮は二人部屋で相方は韓国人の人です。家庭内言語は中国語。なかなか楽しい生活をしています。上海は都会でした！！。杭州でも都会だと思っていましたが比べ物になりませんでした。さすがです、上海。

今回は上海でカルチャーショックになったお話を。

みむ一が住んでいる寮の近くに昔の中国がそのまま残っている通りがあります。

その通りは幅4m、長さ約150mほどの裏通りにあたる訳ですが、昼は魚、肉、生きているハトや鶏、ウコッケイが籠に入れられて売られています。

夜は道の端で生ごみ錯乱する中、人が寝ていたりとかなり恐い光景が広がってたりします。中国でもホームレス以外の方が道端で寝るのは珍しいことなのだそうです。

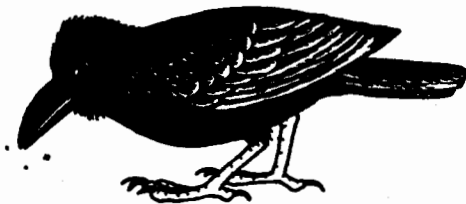
中国の下町を覗くにはいい機会でしたけど、あまり頻繁には通りたくない通りですね。

ある日スーパーにお買い物に行ったとき鳥の丸ゆでの隣に黒い鳥の丸ゆでがありました。よくよく字を見ると『烏』と書いているのです。そう、『カラス』です！。カラスって羽だけが黒いのだと思っていましたが皮も黒かったんですね。思わずそんな感想しか出てこないほどびっくりしました。隣の国なのにこんなに食文化が違うなんて！と感動してしまいました。

最近の出来事としては『ワールドカップ予選中国進出！』でしょう！。日本人のみむ一達も巻き込んでの盛り上がりでした。始まりは、対ウクライナ戦。私達はよく行くお店に夕ご飯を食べに行きました。そこにはTVがあり、常にスポーツ物をやっているのですが、その日は特別にワールドカップサッカー予選だったようで午後7時ごろからやけに人が増えていくじゃありませんか！ついには狭い店内に人が30人ほど、それも全て男！すでに出るに出来ない状態になってしまい7時半よりキックオフ！ゲームは終始中国リード。一点ゴールするたびに大歓声が起こり、低い天井は叩かれ放題！（注：二階にもお客はいます）上機嫌になった中国人の一人が「日本と中国が戦ったらどっちを応援する？」なんて聞いてきて「当然、日本よ！」と答えてみたり。安心して見れるようになった後半は漢語（中国語）、日本語（日本語）の教えあいになったり。『朋友』（読みパンヨウ）は『ともだち』と発音する。なんて。ついに中国の勝利でゲームが終了すると全員で乾杯が始まりました。私達にもコーラが配られて皆で勝利を祝ったのでした！！。最後は「さよなら！そもだち！」と違った発音で朋友のおじちゃんが手を振ってくれたのでした。午後6時半にご飯を食べ始めたのに出てきたのは9時半……。長い夕ご飯となりました。

その後10月7日に対アラブ戦で中国の出場が決定しました。日本と対戦するのであれば、またあのお店に行きたいような行きたくないような……。

以上みむ一の中国通信でした



## ● 県民の森探鳥会 (菰野町)

日時：4月29日(日)9:30～12:10

担当：矢田栄史・高和義

参加者：大人35人、子供13人

観察種：オジロ、オカ、キキレイ、ヒトドリ、  
カラヒリ、カス、メジロ、キジバト、ツグミ、コケ  
ラ、ウグイス、カラス(SP)、ヤマガラ、シジュウカラ、  
エカ、イカ

16種

コメント

- ・例年どおりオオルリが観察できた
- ・アカマツの立ち枯れが目立つ

所長さんに聞いたところ、園内全体で  
16600本もの虫食いがあるもよう。

## ● 木曾岬干拓地探鳥会 (木曾岬町)

日時：7月22日(日)9:00～12:00

担当：村田芳雄・近藤義孝

参加者：14名

観察種：トビ、ゴイサギ、セッカ、バン、キジバト、  
アオサギ、シロドリ、トバト、カウ、カムリカツブリ、  
コサギ、キジ、ダイサギ、オシロ、ウミネ、カラヒ  
リ、ムクドリ、ヒバリ、アジサシ、イソギ、ハシボトガ  
ラス、アマサギ、ハクセキレイ、ツバメ、ケリ、ハシボトガ  
ラス、カカモ、コアシサシ、スズメ

29種

コメント

カムリカツブリとホシハジロが渡りを  
せずにいた。傷病鳥であろうか、それとも渡  
りを止めたのであろうか。

## ● 木曾岬探鳥会 (木曾岬町)

日時：8月26日(日)9:00～12:00

担当：村田芳雄・近藤義孝

参加者：16名

観察種：オカ、アオサギ、ミコ、ゴイサギ、キジバ  
ト、カウ、コサギ、ツバメ、カカモ、ダイサギ、イソギ、バ  
ン、ウミネ、ムクドリ、ユリカモ、チュウサギ、アマサギ、セッカ、コ  
チドリ、ハシボトガラス、ショウトウツバメ、クサギ、カラヒ  
リ、ハシボトガラス、トビ、トバト、ハクセキレイ、カセミ、カツ  
ブリ、キジ、ケリ、ツバメチドリ、ヒバリ、スズメ、ヒトドリ

35種

コメント

2羽のツバメチドリ、しかも飛ぶところもみるこ  
とができた  
環境変化や問題  
鳥合わせの時、木曾岬干拓地の干潟復元の運

動を他団体と手を組んでやってはどうかと  
いう意見がでた。

## ● 高松海岸探鳥会 (四日市市)

日時：8月26日(日)10:00～11:45

担当：高和義

参加者：11名

観察種：ハシボトガラス、ハシボトガラス、スズメ、カ  
ラヒリ、ダイサギ、コサギ、ウミネ、キソギ、ユリカ  
モ、カウ、サゴイ、ツバメ

計12種

(カラスやウミネが大半を占めた)

コメント

高松海岸は県下で最も北に位置する自然海  
岸である。朝明川河口の右岸にわずかに残さ  
れたこの自然海岸には、堤防の近くにセンダ  
ンやエノキが生え、海浜植物も多い。ハマゴ  
ウも紫色の花をいっぱいにつけ、夏の暑さに  
頑張っていた。

台風11号の影響で海岸の波打ち際には、た  
くさんのゴミが打ち上げられ、そこには30  
センチのアカエイの死骸が数体あった。ま  
た、砂浜には幅10センチ、歩幅5センチの  
足跡が続いていた。まさかアカウミガメと思  
ったが、専門家の話では、この寸法から、イ  
シガメだそうだ。

今夜はこの霞ヶ浦埠頭付近で四日市花火  
大会があり、堤防道路は規制がかり、進  
入禁止になるようなので、早目の終了とな  
った。花火大会はもとより、道路建設による  
野鳥への音や影響を心配しながらの終了と  
なった。

## ● 斎宮池探鳥会 (明和町町)

日時：9月1日(土)9:00～11:30

担当：西村 泉・山田昭子

参加者：17名

観察種：バン、アオサギ、カセミ、エカ、キジバト、  
メジロ、ヒトドリ、カツブリ、スズメ、ツバメ、コシア  
ツバメ、ハクセキレイ、コサギ、クサギ、ハシボトガ  
ラス

16種

コメント

斎宮池牛前に明和町が管理型のゴミ処分  
場の建設工事が進められている。

斎宮池のアセスには、このことについて視  
野に入れておらず、総合的に考えなければ  
折角のアセスも無意味ではないかと思う。

## 探鳥会 (9~10月分)

### ● 宮川河口探鳥会 (伊勢市)

日時: 9月16日(日) 9:15~12:00

担当: 世古口有司・西村 泉

参加者: 12名(会員)

観察種: カウ、ミソ、イソギ、ハセキレイ、ダイサギ、トビ、ウミネ、モズ、チュウサギ、キジ、アジサシ、セッカ、アオサギ、シロドリ、コアシサシ、ホジロ、アオサギ、ケリ、キジバト、ムクドリ、コガモ、キアシサギ、ツバメ、ハシボソガラス

25種

コメント

池に近づきすぎてカモが飛び散ってしまった。

環境変化や問題

海岸に流木や木くずが多く流れついていた。台風の影響と思われるが、シギが少なかったことと関係があるのだろうか。

### ● 木曾岬探鳥会 (木曾岬町)

日時: 9月23日(日) 9:00~12:00

担当: 村田芳雄・近藤義孝

参加者: 21名

観察種: カウ、カイツブリ、モズ、トビ、キジバト、コサギ、スズメ、ハシボソガラス、イソギ、ダイサギ、チュウサギ、カセミ、カガモ、ゴイサギ、ノスリ、アオサギ、バン、シヨウドウツバメ、ミソ、ケリ、ヒバリ、トバト、コガモ、セッカ、クササギ、キジ、セキレイ、ムクドリ、ハセキレイ、ヒヨドリ、ハシボソガラス

31種

コメント

木曾岬干拓地が開発されようとしているので、三重県支部の人にもっと見に来て欲しい。いつも5~6人といったところです。

環境変化や問題

堤防を発着場にしたいライトプレーンが増加し、大型鳥類に悪影響を与えているのではなからうか。

### ● 海蔵川探鳥会 (四日市市)

日時: 9月23日(日) 9:00~12:00

担当: 村田芳雄・近藤義孝

参加者: 21名

観察種: ムクドリ、キジバト、モズ、カウ、カイツブリ、カガモ、ハセキレイ、スズメ、ヒヨドリ、ツバメ、セキレイ、カセミ、セグロセキレイ、バン、ホジロ、カラヒ、ハシボソガラス

17種

コメント

代官橋は川幅拡張に伴う付け替え工事が始まる。江田川との合流付近でヒナ(3)を

観察。まだ毛糸玉に赤いくちばしをつけたような若い鳥を親が見守っていた。この付近は代官橋付近の影響は無いと思うが、生活圏が狭められつつあるのは確か。

### ● 大屋戸橋探鳥会 (名張市)

日時: 10月8日(日) 9:30~12:00

担当: 田中豊成

参加者: 21名

観察種: モズ、スズメ、ヒバリ、コシアカツバメ、セグロセキレイ、セキレイ、ハセキレイ、イソギ、カイツブリ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、ハシボソガラス、ハシボソガラス、キジバト、ヒヨドリ、ホジロ、カウ、カセミ、バン、キジ、イカルドリ、トビ

24種

コメント

渡りの途中のヒバリ、コシアカツバメが見られた。いつもながら、カセミの気持は大変なものであった。

環境変化や問題

少し前の台風の影響で水かさが増し、その結果、名張川には沢山のゴミが見られた。

### ● タカ渡り探鳥会 (伊勢市)

日時: 10月7日(日) 7:00~11:00

担当: 今村禎・吉居瑞穂

参加者: 40名

観察種: サシバ 357、ハチクマ 3、ハヤブサ 1、コノハヤブサ 1、トビ、ミソ、ヒヨドリ、ハシボソガラス、ハシボソガラス、モズ、キジバト、ムクドリ、コサギ、ダイサギ、アオサギ、ハセキレイ、カセミ、セグロセキレイ、カウ、スズメ、カラヒ、トバト、アマツバメ、カイツブリ、イヒヨドリ、セキレイ、トン類

27種

コメント

事前調査、相手方との打合せが不十分のため企画を変更する事になり反省しています。結果としては五十鈴川での探鳥会でよかったと思うが。

その他

菅島の土砂採取問題など、皆さんに知ってもらうことができなかった。

五十鈴川は駐車場スペース、階段堤防での観察など、多くの人が集まってもまわりに迷惑をかけることがなかったのはよかった。

## お知らせのページ

### バードウォッチング&クリーン大作戦 in 高松海岸

日時：2001年11月25日 午前10時～正午

場所：高松海岸

参加費：100円（保険代）

持ち物：軍手、筆記用具

あれば持参（双眼鏡、火ばさみ）

その他：①小学生以下は保護者同伴

②雨天時は、上吉公民館にて野鳥の模型で  
勉強会干潟のビデオ鑑賞と紙芝居

問い合わせ先：水谷（ ）

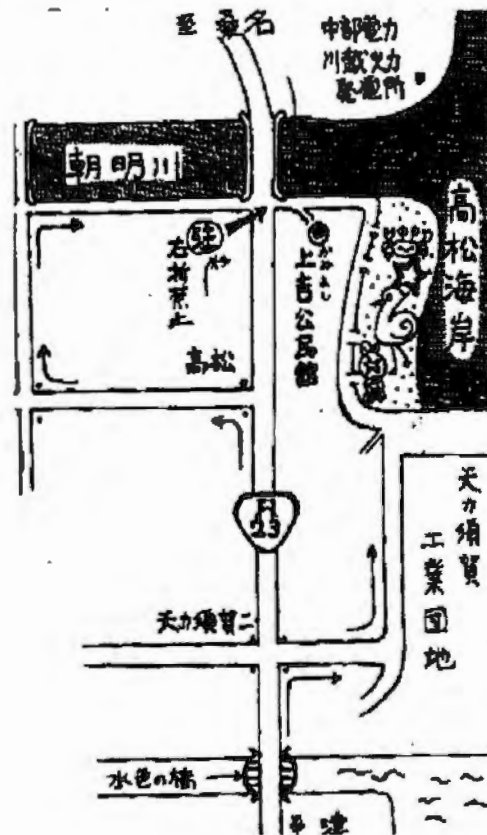
西垣（ ）

主催：（財）日本野鳥の会 三重県支部  
高松干潟を守ろう会

協賛：環境創造活動を進める三重県民の会

後援：三重県環境県民会議

四日市市教育委員会



### 編集部よりのお知らせ

#### ☆次号特集

次号（2月予定）では「我が家の鳥さん」と題して、皆さんの身近な鳥の話題で特集を組みたいと思います。

自分の家にくる鳥にはこんなのがいるよ、あんな仕草も可愛いよ、鳥たちのテーブルはこんな工夫をしているよ等々、皆さんのコメントを頂けたらと思います。

#### ☆「しろちどり」についての意見やコメントについて

しろちどりに対しての意見やコメントをお寄せください。できれば「意見交換コーナー」を作って、会員相互の意見交換の場にしたいと思います。季刊ということで、間延びするかも知れませんが、少しでも交換の場になればと思います。

保護部よりのお知らせ

「木曾岬干拓フォーラム」 自然と未来を考える

三重県総合企画局担当者

「木曾岬干拓地の経過と利用計画」

講師：茂田良光氏（山階鳥類研究所）

「シギ・チドリの渡りと保護」

講師：森井豊久氏（名古屋鳥類調査会代表）

「木曾岬に集まる猛禽類」

場所：桑名郡長島町中央公民館

住所：桑名郡長島町松ヶ島61-3

TEL：0594-42-1000

近鉄長島駅から、徒歩約15分長島町役場前

日時：2001年12月16日（日）

13：00開会 16：00閉会

主催：（財）日本野鳥の会 三重県支部

愛知県野鳥保護連絡協議会

後援：しじみプロジェクト・桑名

自然観察指導員三重連絡会

愛知県自然観察指導員連絡協議会

連絡問い合わせ先

日本野鳥の会 三重県支部

理事 村田芳雄

尾張野鳥の会 会長 浅沼秀夫



<視聴覚障害者の探鳥会>

日本野鳥の会本部の紹介で、三重県支部の木村京子さんに視聴覚障害者のための探鳥会依頼があり、5月17日に三重県民の森で開催されました。

報告の一部として

- ・実施に当たって事前に代表とコースの下調べをする等十分な準備
  - ・参加者は四日市市視聴覚障害協会等24名
  - ・スキヤントークリーダーを使ったこの日の鳥の紹介や身近な鳥の聞きなし等の話を楽しんで貰った。
  - ・参加した人達は目が不自由であることマイナス面で捉えることなく、積極的に楽しむ姿勢があること。
- 等が寄せられました。

「しろちどり」の原稿の宛先は.....

(イラスト・表紙絵も大募集)

〒:

三村 通雄 宛でお願いします。

TEL (FAX)

e-mail

取り上げて欲しいテーマ。またはこんなテーマはいかがですか?などのアドバイス。  
川柳・短歌も大歓迎。

**編集後記**

今回の特集はいかがでしたでしょうか。  
各地区の皆さんからのコメントで各地区  
での特徴がよく分るような気がします。

もう、秋も深まってきました。今月初めの  
四国讃岐の満濃公園では早くもチョコレート  
コスモスを始め種々のコスモスが広い花  
畑一面に咲き乱れていた。夜のライトアップ  
に映えるコスモス畑の中で、サヌカイト(石  
琴)コンサートの調べを聞きながら秋を感じ  
たことでした。

M・M

**しろちどり 第33号** 2001年10月発行

題 字 濱田 稔  
表紙絵 平井 正志  
挿 絵 平井 正志・鹿島素子  
編 集 三村 通雄

発行者 (財)日本野鳥の会 三重県支部  
〒516-0026 伊勢市宇治山田浦田2丁目9-4  
杉浦 邦彦方  
印 刷 館 印刷  
〒510-1321 三重郡菟野町田口1903-3

●本誌掲載記事の無断転載を禁じます。●

正誤表 (訂正いたします)

	誤	正
8ページ 「秋の鳥」	翁来て	鵜来て
10ページ 「県民の森探鳥会」	16600本	1600本
「斎宮池探鳥会」	明和町町	明和町